

2019-5-3 ウサギの肝臓・腎臓

野崎陸

提出機関：Institute of Veterinary Animal and Biomedical Sciences, Massey University, New Zealand

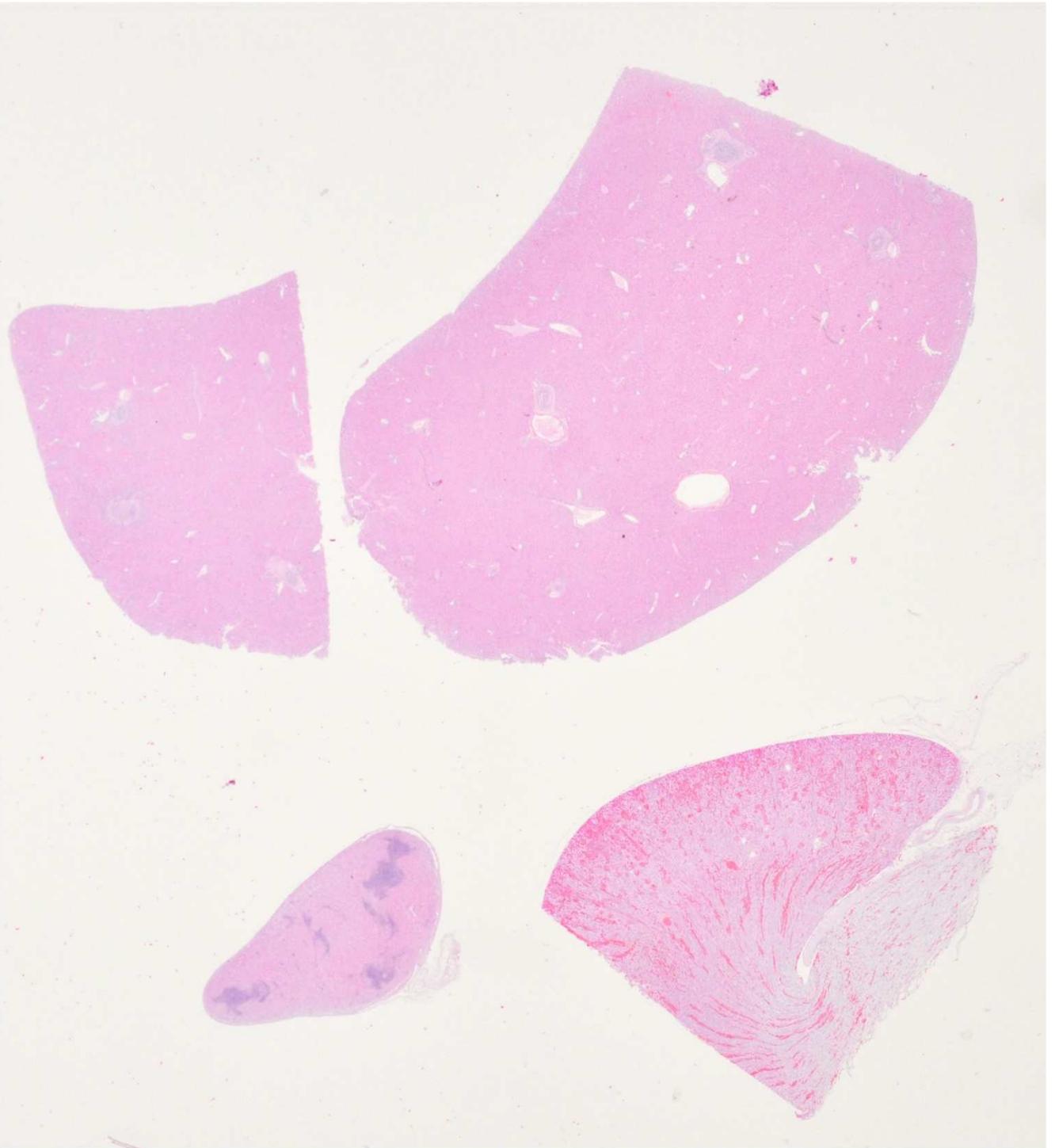
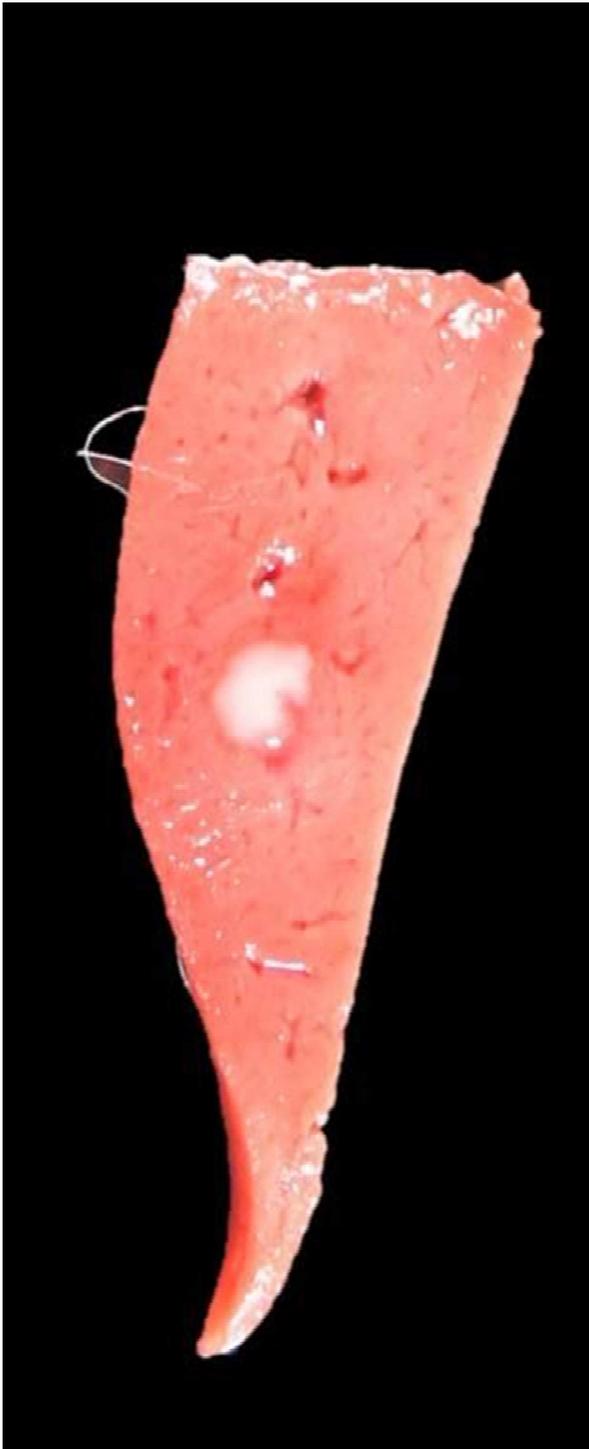
症例：アナウサギ（*Oryctolagus cuniculus*）
メス 8週齢

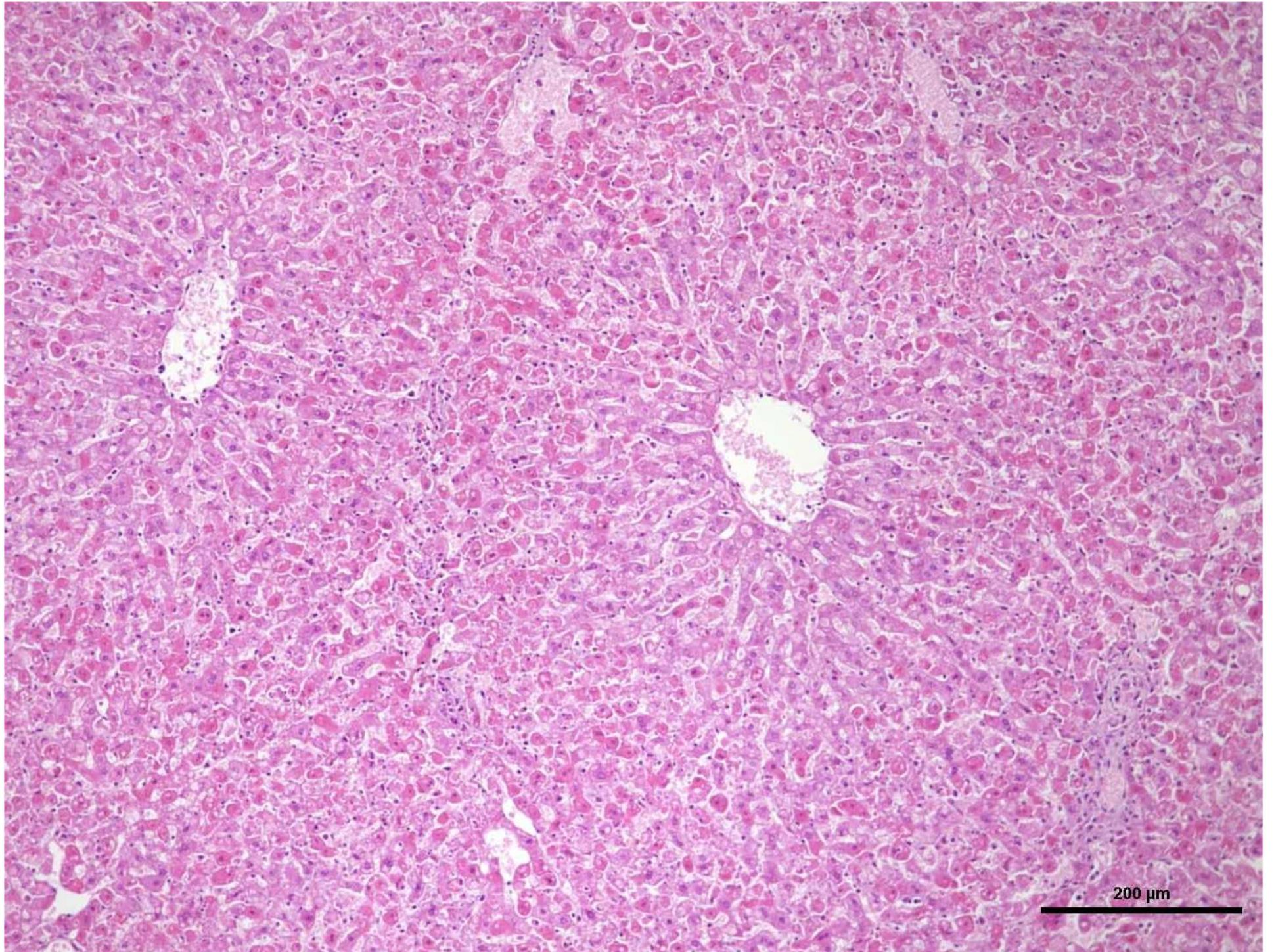


出典：Wikipedia

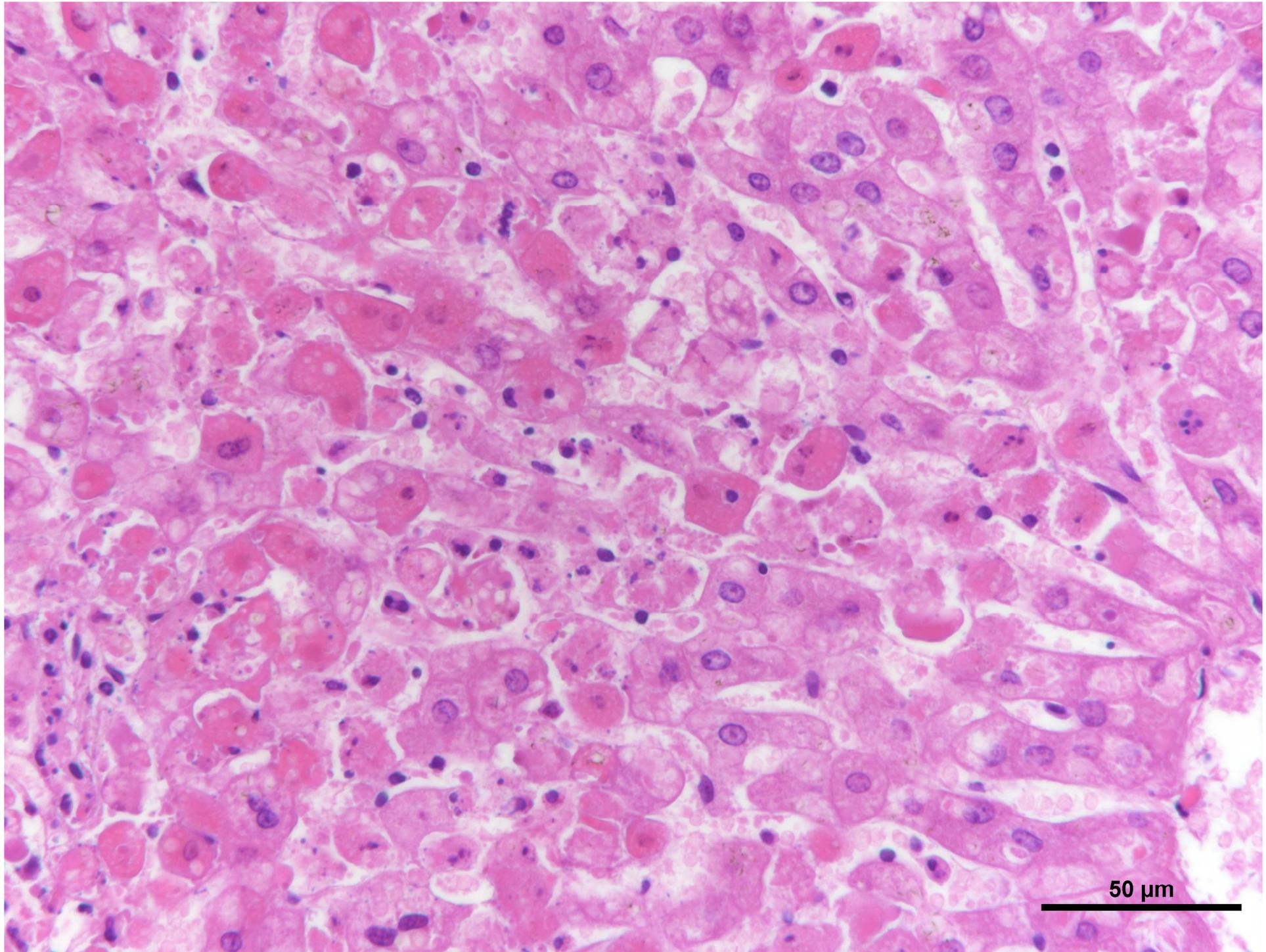
病歴：保護され飼養されていたが、嗜眠、食欲不振、低体温を示し、臨床症状の発現から**48**時間以内に死亡。森で死んでいる状態で発見された。同腹および同じ群れの若い個体も同様の症状を示し死亡。

細菌学的検査：*Yersinia pseudotuberculosis* 分離+（肝臓・脾臓）

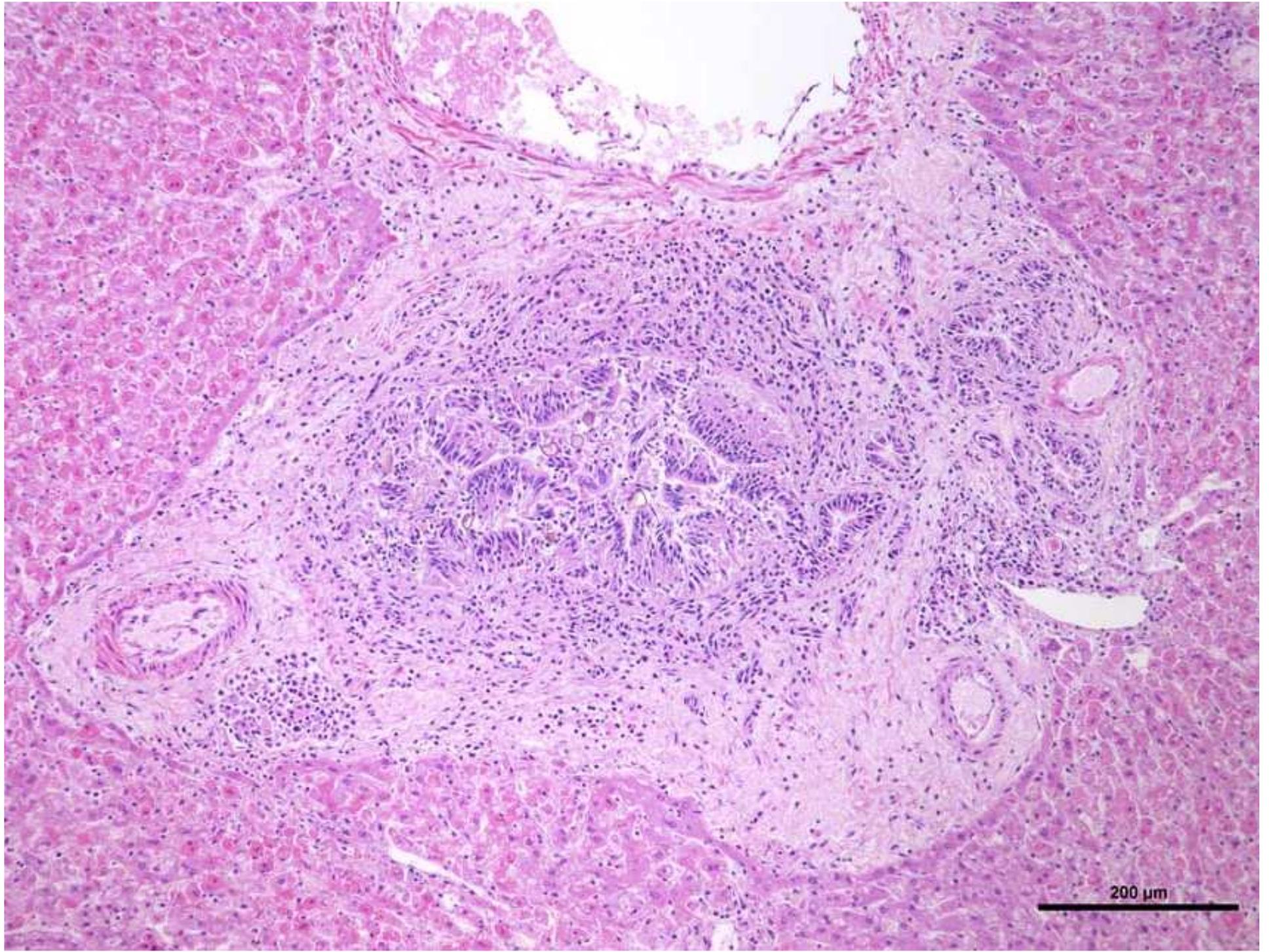


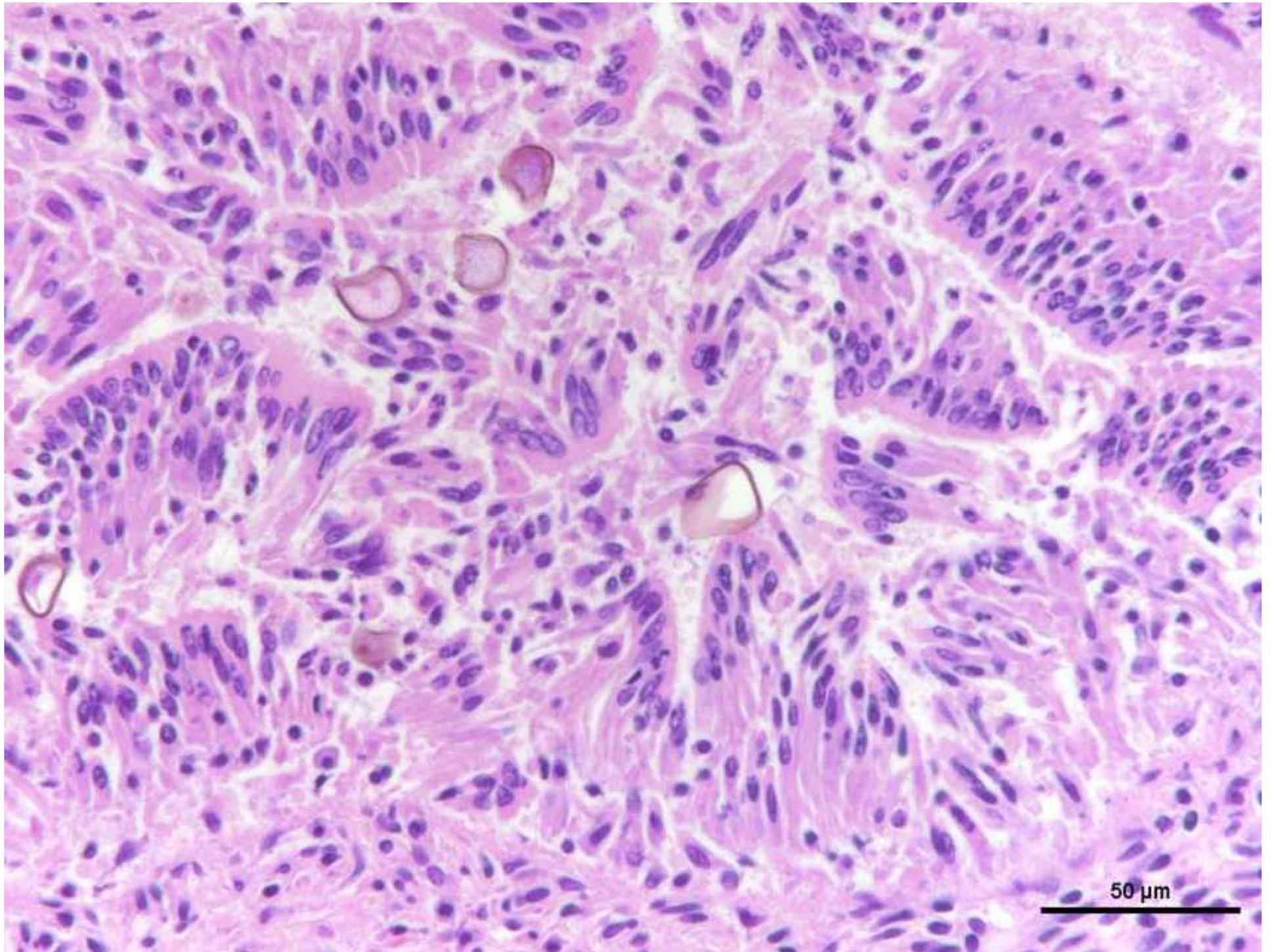


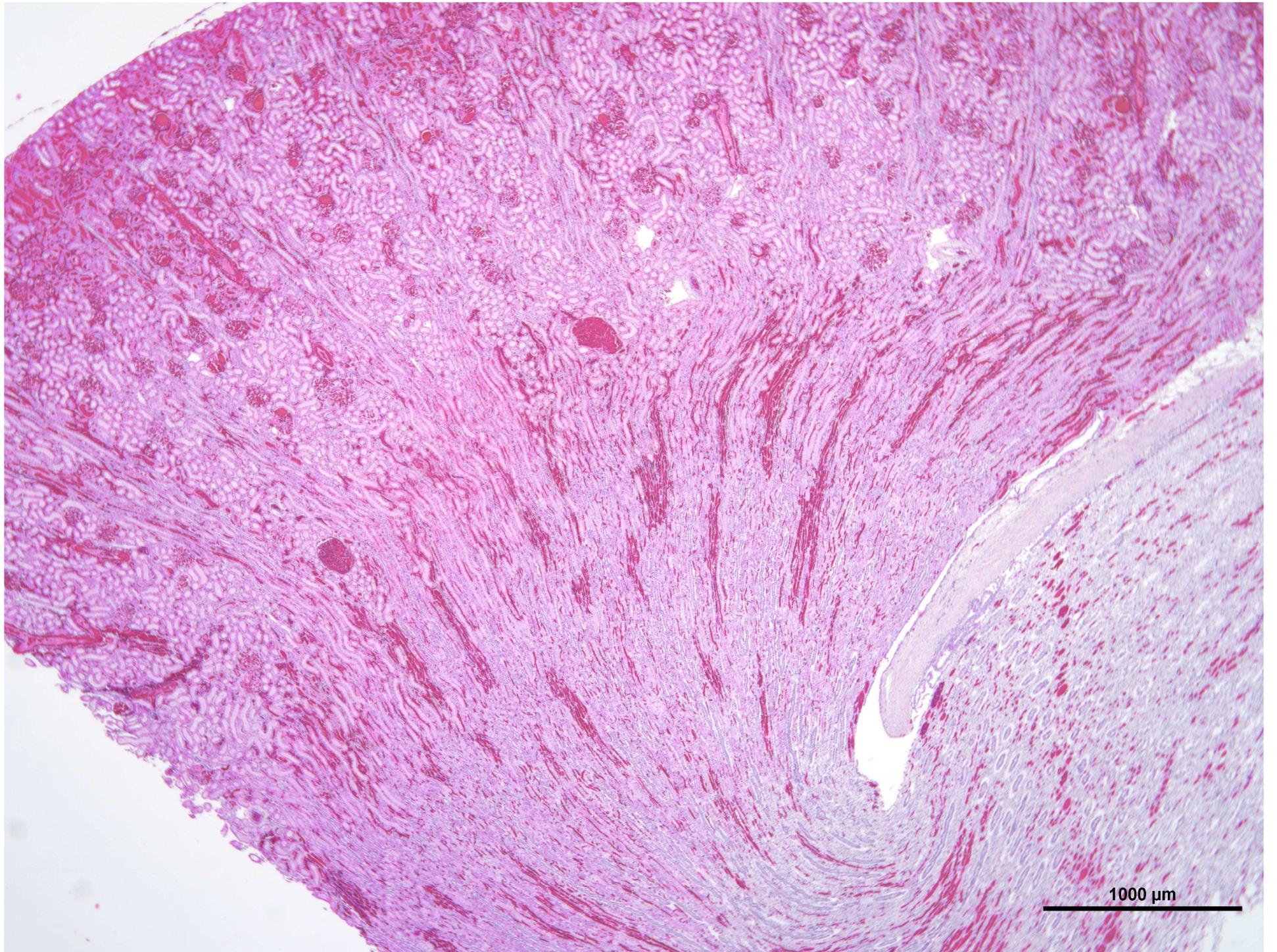
200 μ m

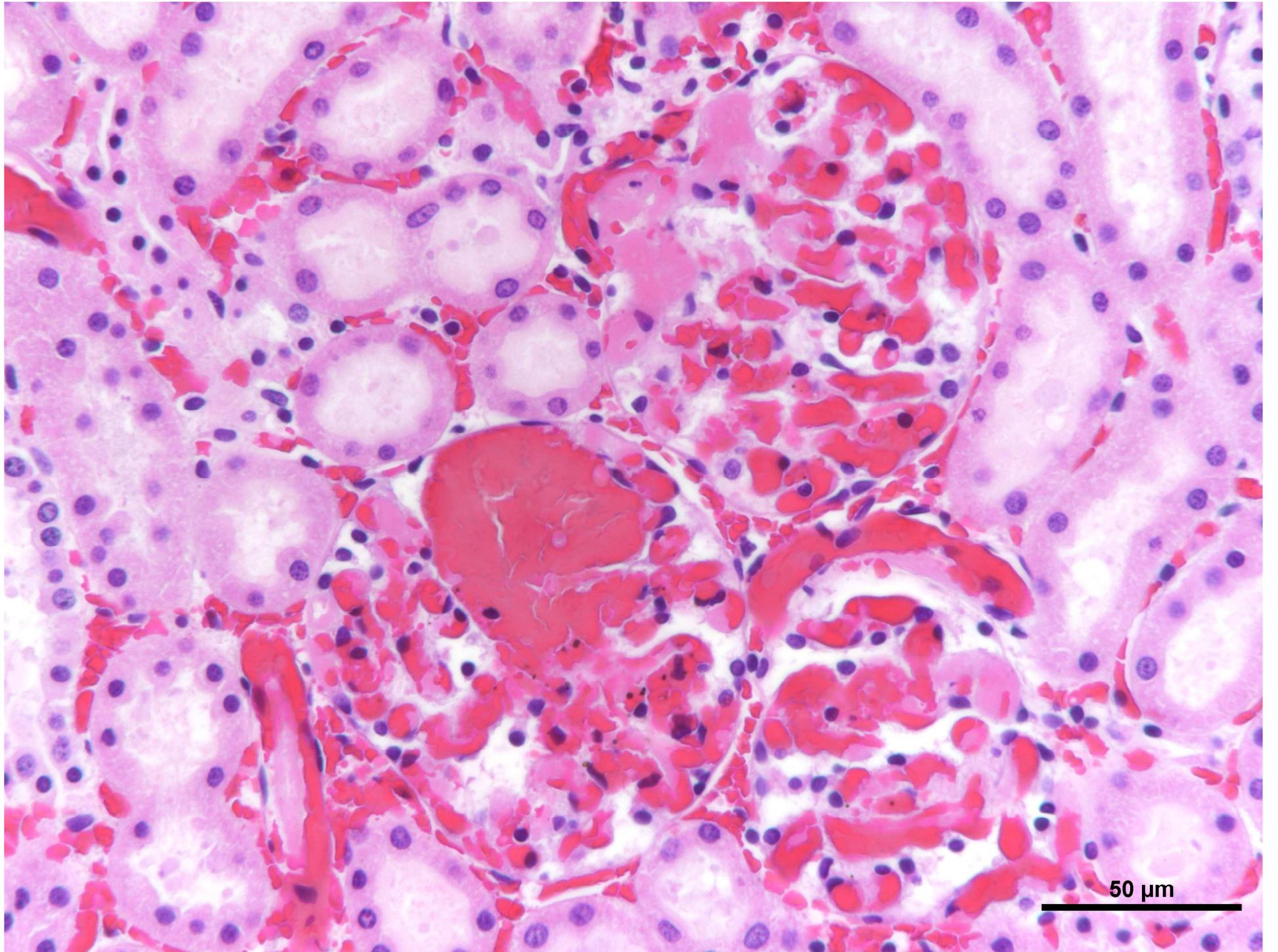


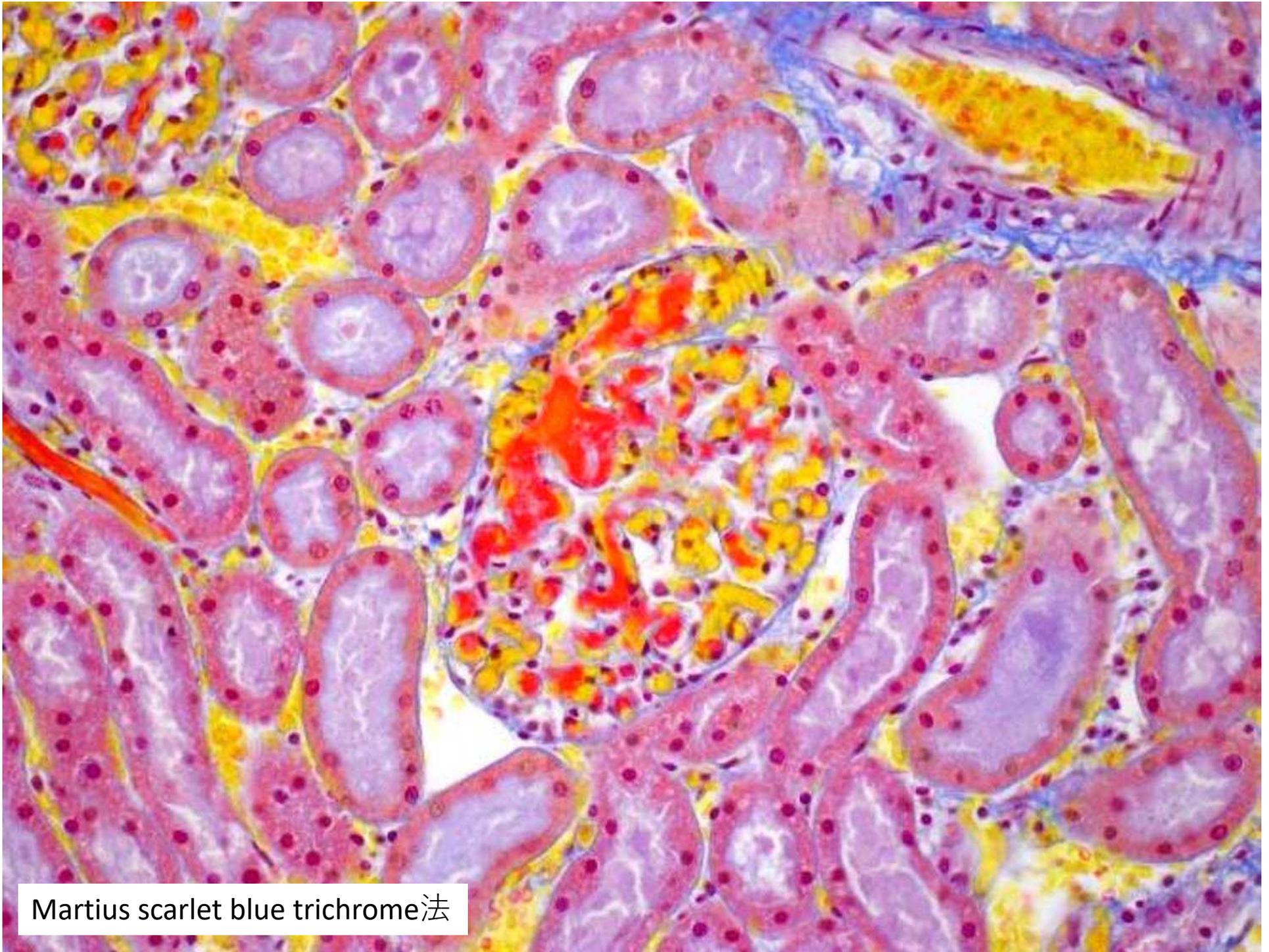
50 μ m











Martius scarlet blue trichrome法

投稿者の診断

肝臓：肝炎、急性、中程度から重度、ランダム性。肝細胞壊死を伴う。

肝臓：胆管炎、増殖性、慢性、重度。上皮内のコクシジウムを伴う。

腎臓：腎炎、出血性、重度、急性。多発性糸球体血栓症を伴う。

Liver: Hepatitis, acute, moderate to severe, random with hepatocellular necrosis

Liver: Cholangitis, proliferative, chronic severe with intraepithelial coccidia

Kidney: Nephritis, haemorrhagic, severe, acute, with multifocal glomerular thrombosis

JPCの診断

肝臓：肝炎、壊死性（アポトーシス）、塊状、びまん性、重度。

肝内胆管：上皮過形成、びまん性、軽度から中程度。

管腔内アピコンプレックス門のオーシストを伴う。

Liver: Hepatitis, necrotizing (it's really apoptosis), massive, diffuse, severe.

Liver, bile ducts: Epithelial hyperplasia, diffuse, mild to moderate, with intraluminal apicomplexan oocysts

投稿者のコメント

○兎出血病（RHD）（カリシウイルス科ラゴウイルス属）**死因**

- ・急性肝障害と播種性血管内凝固を起こし、通常感染後**48～72時間**で死亡する。（致死率**80%超**）
- ・RHDVは肝細胞向性（脾臓・肺胞・腎臓・小腸のマクロファージ）
ウイルスの複製は主に肝細胞で行われる（クッパー細胞でも）
→アポトーシスを誘導

○兎コクシジウム症（*Eimeria stiedae*）**本症例の偶発的な所見**

JPCのコメント

- ・RHDVのCzech v351株は、オーストラリアとニュージーランドで、害獣ウサギのコントロールに長年使用されてきた。
- ・しかし、このCzech v351が使用される前から、RHDVと交差反応を示す抗体を保有する兎が見いだされたことから、非病原性ウサギカリシウイルスが過去に兎群で流行したことが示唆されている。
- ・オーストラリアにおける**1990年代**と最近の集団発生事例の比較から、RHDVの病原性が増加していることが示唆された。